Agilent GC、MSD、および ALS

据付チェックリスト

GC、GC/MSD、および ALS の設置準備の確認　2
7890A GC の据付　3
7683 オートサンプラ（ALS）の据付　4
GC および 5975 MSD の据付　5

本チェックリストは、GC、MSD、および ALS の正しい据付と、お客様の設備における適切な動作を支援します。正しい設置とインストールを行うことが、機器とシステムの耐用年限を延ばし、正確に動作させるための第一歩です。

据付の前に、バイアル、シリンジ、溶媒などの必要な補給品、消耗品などが準備できていることを確認してください。

GC、GC/MSD、および ALS の設置準備の確認

- ❒ 設備スペースは十分です。
- ❒ 設置台は機器の重量に耐えられます。
- ❒ 電源電圧は適切で、容量も十分です。
- ❒ 設置環境を整えるために、エアコン等の設備はあります。
- ❒ 必要な換気機器はあります。
- ❒ 必要な溶媒、動作確認用のキャリアガスおよび試薬ガス、プリンタ用紙などは準備できています。
- ❒ 届いた荷物の開梱と内容確認をします。

7890A GC の据付

- ❒ 開梱し、届いた製品の状態、および不足のないことを配送書類で確認します。
- ❒ シリアル番号を確認し、必要に応じて据付マニュアルのシリアル番号フィールドに記入します。
- ❒ 機器とコンピュータ システムの電圧設定を確認します。
- ❒ 電源ケーブルがソケットに対応していることを確認します。
- ❒ 入力電圧と電圧設定を確認します。
- ❒ ガス クロマトグラフを設置台に置きます。
- ❒ ガス供給 / トラップを接続します (注文した場合)。
  - ・ ガスの純度を確認します。
  - ・ すべての接続の空気漏れを確認し、ガス ラインをパージします。
- ❒ 低温冷却材を接続します (含まれている場合)。
- ❒ 電源ケーブルをコンセントに接続します。
- ❒ シグナル出力やリモート ケーブルを接続します (該当する場合)。
- ❒ GC の電源を入れます。
- ❒ データ システムで使用する LAN を設定します。
- ❒ 必要に応じて、正面パネルでデータ システムに IP アドレスを設定します。
- ❒ 注入口にテスト カラムを取り付け、コンディショニングします。
- ❒ GC に日時、デバイス、カラム、ガスなどを設定します。
- ❒ カラムのもう一方の端を取り付けます。
- ❒ チェックアウト条件とサンプルを使用して、システムを点検します。
- ❒ ユーザ マニュアルとサービス マニュアルを PC にインストールします (該当する場合)。
- ❒ 実験用モニタと診断ソフトウェアを PC にインストールします。

7683 オートサンプラ（ALS）の据付

- ❒ シリアル番号を確認し、必要に応じて据付マニュアルのシリアル番号フィールドに記入します。
- ❒ ALS の GC に対する入力電圧設定を確認します。必要に応じて 115 VAC に変更します。
- ❒ ALS ハードウェアを次の手順で GC に据え付けます。
  - トレイを据え付けます （該当する場合)。
  - インジェクタの梱包を外します。
  - インジェクタ取り付けポストとインジェクタを取り付けます。
  - 扇型トレイを取り付けます （該当する場合)。
  - インジェクタとトレイ ケーブルを接続します （該当する場合)。
- ❒ 制御デバイスに接続します。
- ❒ GC の電源を入れます。
- ❒ GC とデータ システムに ALS を設定します。
- ❒ ドライ ランを実行し、機器の機能を確認します。
  - 3 つのサンプル バイアルにキャップをかぶせます。
  - トレイを取り付けていない場合は、8 つのサンプル タレットを取り付け、必要に応じて位置調整します。3 つのサンプルをタレットに置きます。
  - サンプル ポジション 1、2、3 にサンプル バイアルを置きます。
  - 溶媒と廃液バイアルを所定の位置に置きます。
  - シリンジを取り付けます。
  - 7683 オート サンプラ操作マニュアルの「操作例」に説明されている通りに、GC と制御デバイスを準備します。
  - シーケンスを開始します。

GC および 5975 MSD の据付

MSD の据付準備

- ❒ 開梱し、届いた製品の状態および不足のないことを輸送文書で確認します。
- ❒ シリアル番号を確認し、必要に応じて据付マニュアルのシリアル番号フィールドに記入します。
- ❒ MSD とフォアラインポンプを設置台に置きます。
- ❒ MSD 上部カバーを開けます。
- ❒ MSD と標準またはドライのフォアラインポンプ （標準は安全ケージ内）を準備します。
- ❒ ディフュージョンポンプのキャップを MSD から取り外します (5975B VL MSD のみ)。
- ❒ ベントバルブを開き、大気開放します。
- ❒ G3397A Micro イオンゲージコントローラを設置します（CI MSD に必要）。
- ❒ 試薬ガスを準備し、配管を MSD（CI MSD）に接続します。

MSD を GC へ接続

- ❒ GC の電源を切ります（温度が設定されている場合は十分に温度を下げてからにしてください）。
- ❒ GC 左カバー内の穴を、バック位置で使用できるように位置調整します。
- ❒ GC/MSD インターフェイス　ヒータ　ケーブルを接続します。
- ❒ MSD インターフェイスが GC オーブン内に出ている事を確認します。
- ❒ GC と MSD をリモートケーブルで接続します。
- ❒ MSD をコンセントに接続します。
- ❒ サイドプレートのつまみねじを完全に緩め、アナライザを開けます。
- ❒ カラムを GC/MSD インターフェイスに取り付けます。
- ❒ フォアライン ポンプと電源コードを MSD に接続します。
- ❒ GC の電源を入れます。
- ❒ トランスファ ライン ヒータをオフにします。
- ❒ 定流量モードで、GC キャリアガスの流量を 1.0 mL/ 分 に設定します。

- ❒ MSD の電源を入れます（サイドプレートを機器本体に密着するように押しながら行なってください）。
- ❒ フォアライン ポンプ（標準またはドライ） とフロント ファンの動作を確認します。
- ❒ 60 秒以内にフォアライン ポンプのガラガラいう音が小さくなります（標準ポンプ）。
- ❒ 4 分以内にターボポンプのうなる音が無くなります（5975 inert シリーズのみ）。
- ❒ ディフュージョン ポンプのヒータがオンであることを確認します（5,975B VL MSD のみ）。
- ❒ 真空排気が終了してから 10 分後に MSD の電源が切れていないことを確認します。
- ❒ GC のヒータをオフにします。

MSD ChemStation と PC の据付

- ❒ PC を据え付け、必要に応じてプリンタを接続します。
- ❒ 必要に応じて LAN システムを構築します。
- ❒ ソフトウエアをインストールおよびアップグレードして初期設定します。

動作確認

- ❒ チェックアウト チューニングを実行します。
- ❒ チューニング評価を実行します。
- ❒ EI の感度チェックを実行します。
- ❒ CI MSD を CI 動作モードに切り替えます（該当する場合）。
- ❒ PCI の動作確認します （該当する場合)。
  - ❒PCI オート チューニングを実行します。
  - ❒PCI 感度を確認します。
- ❒ NCI の動作確認をします（該当する場合）。
  - ❒NCI オートチューニングを実行します。
  - ❒NCI 感度を確認します。
- ❒ 高質量動作の確認をします（該当する場合）。

第 1 版 2007 年 3 月

このマニュアルに記載されている内容は「現状のまま」提供されることを前提としており、以後の改定版では通知なしに変更されることがあります。

ゥ Agilent Technologies, Inc. 2007

Printed in USA and China, 2007 年 3 月

G3430-96019